

令和 2 年度 事業 報告 (音楽)

自 令和 2 年 4 月 1 日
至 令和 3 年 3 月 31 日

公益目的事業 3 (顕彰事業)

1. 「第 5 1 回サントリー音楽賞」「第 1 9 回佐治敬三賞」(2019 年度) の贈賞

第 51 回サントリー音楽賞の河村尚子氏、第 19 回佐治敬三賞の「THE 鍵KEY」への贈賞式を 10 月 14 日 (水) 11:00 よりサントリーホール ブルーローズ (東京都港区) にて開催し、賞金 700 万円 (サントリー音楽賞)、200 万円 (佐治敬三賞) を贈呈。河村尚子氏による記念演奏、佐治敬三賞受賞公演の一部映像上演が行われた。COVID-19 感染拡大防止のため、受賞関係者のみ出席とし、祝賀パーティは中止した。

2. 「第 5 2 回サントリー音楽賞」(2020 年度) の選定、贈賞

ア. 選考過程

- (1) 令和 3 年 1 月 11 日 (月・祝) に、選考委員 6 名による第 52 回「サントリー音楽賞」の「候補者選考会」をオンライン会議として開催した。
- (2) その結果、2020 年にわが国の洋楽の発展に優れた業績をあげた人々として、候補者を選定した。
- (3) 引き続き 2 月 25 日 (木) に「受賞者選考会」をオンライン会議として開催した。選考委員 6 名による慎重かつ白熱した審議の結果、第 52 回サントリー音楽賞に、三輪眞弘氏が選定された。
- (4) 3 月 16 日 (火) に開催された理事会において、正式に第 52 回「サントリー音楽賞」は、三輪眞弘氏に決定した。

イ. 贈賞理由

三輪眞弘の創作は一種のトリガーである。20 世紀末から 21 世紀の今日に至るまで、日本の作曲界において独自の存在感を示してきたのはひとえにその問題喚起力による。だが、三輪の作品は思弁にのみ働きかけるわけではない。聴覚、視覚、ときには嗅覚や触覚までも動員して初めて、その本質が理解可能となるのだ。

2020 年はそのような作風を前提として、作曲家自身が企画と構成を行った「三輪眞弘祭ー清められた夜」(ぎふ未来音楽展 2020) のライブ配信が行われた。コロナ禍で起こった現象への批判的認識に立って、コロナ禍にあつてこそ可能な無観客ライブの方法をとりながら、映像監督の前田真二郎、詩人の松井茂らの協力のもと、あらためて三輪の実力が示された公演だったと評価できる。新作「鶏たちのための五芒星」で実際に鶏たちが舞台周辺を歩き回る中、ガムランの演奏が行われ、パイプオルガンとともに J・オケゲムのレクイエムを人工音声で歌う。「霊界ラヂオ」が死者の声を傍受し、粉が舞う中、ダンスが続き、同時に詩が配信されていく。さまざまな演奏や動作が重なり、接続されていくパフォーマンスは一種の儀式的様相を

帯びていた。

人工音声や死者の声の傍受といった仕掛けによって異界と結び、一つの架空の宗教を措定することは、音楽が古来持っていた儀式性を想起させる。コロナ禍に対して、癒しに向かうのではなく、かといって、コロナ以後の新しい日常といった楽観的な立ち位置でもなく、「音楽による音楽のためのお通夜」というシニカルで先鋭的な理念を実体化してみせたことが秀逸である。深夜3時間に及ぶ公演が示した強烈な世界観はこれまでの三輪自身の活動を総括するもので、第52回サントリー音楽賞の贈賞にふさわしい。

- ウ. 選考委員 岡田暁生、片山杜秀、白石美雪、長木誠司、舩木篤也、松平あかね の6氏
- エ. 賞金 700万円
- オ. 贈賞 日程調整中

3. 「第20回佐治敬三賞」の選定、贈賞

ア. 選考過程

- (1) 令和元年10月1日～11月30日および令和2年4月1日～5月31日の2回の募集期間に、令和2年(上期、下期)に実施される音楽公演についての応募を受け付けた。応募公演について選考委員8名が分担し公演の視察を行った。
- (2) 令和3年2月23日(火・祝)、第20回選考会をオンライン会議として開催し、選考委員8名による慎重かつ白熱した審議の結果、第20回「佐治敬三賞」受賞公演に、「ペルセポリス 秋吉台で聴くテープ音楽」「ぎふ未来音楽展「三輪眞弘祭」清められた夜」の2公演が選定された。
- (3) 3月16日(火)に開催された理事会において、上記2公演を正式に第20回「佐治敬三賞」の受賞公演に決定した。

イ. 公演概要・贈賞理由

受賞公演1(開催日順)

<公演概要>

名称:「ペルセポリス ～秋吉台で聴くテープ音楽～」

日時:2020年9月5日(土)17:30

会場:秋吉台国際芸術村 ホールおよび中庭

プログラム:対談「テープ音楽の魅力について」

湯浅譲二「ホワイト・ノイズによるイコン」(1967)

ルイジ・ノーノ「照らし出された工場」(1964)

ヤニス・クセナキス「ペルセポリス」(1971)日本初演

出演:対談・エレクトロニクス 有馬 純寿

ソプラノ(ノーノ作品) 太田 真紀

対談(リモート出演)・照明演出(クセナキス作品) 足立 智美

音響照明:有限会社伊藤音響

企画協力：ナヤ・コレクティブ

主 催：公益財団法人山口きらめき財団秋吉台国際芸術村

<贈賞理由>

クセナキス「ペルセポリス」の初演を中心に、湯浅譲二「ホワイト・ノイズによるアイコン」、ノーノ「照らし出された工場」と、アナログテープ音楽（ノーノ作品はソプラノ歌唱を伴う）の古典的名作をまとめて多チャンネル野外上演した公演である。「ペルセポリス」の世界初演はイランのペルセポリス遺跡で行われたが、日本国内での上演には、秋吉台国際芸術村中庭がふさわしい場だった。周囲数キロメートルに人家のない環境は、2019年に利用率を理由に存続が議論された（2万筆近くの存続嘆願署名を受け、本公演の少し前に当面5年間の存続が決まった）要因にもなったが、大音量野外上演に際しては本質的メリットになった。

公演の主演は、いまや日本の電子音楽上演に欠かせないエレクトロニクス奏者有馬純寿。ノーノ作品をリマスターして日本初演（今回も初演者の太田真紀と共演）し、湯浅作品の5チャンネル・リマスター上演も主導してきており、今回の曲目に最もふさわしい。「ペルセポリス」の照明演出を担当した足立智美はプレトーク（ベルリンからオンライン出演）で、ノイズ音楽のルーツとしての歴史的意義を強調していたが、8チャンネル再生で聴くと、個々のチャンネルの音響はミュージック・コンクレートとしてはむしろ原始的だが、大音量で堆積されると質的变化が起こって超越体験に導かれる、ノイズ音楽の本質を先取りしていたことが実感された。選曲・演奏・歴史的意義の三拍子揃った稀有な公演だった。

古典的名曲のみの公演なので、新作を通じた時代状況へのアクチュアルな問いかけに欠けるのはやむを得ないが、「ぎふ未来音楽展 2020 三輪眞弘祭 ー清められた夜ー」と同時贈賞すれば、過去と現在を相補的に俯瞰できる（音楽ホールでの生演奏のオンライン配信という上演形態も奇しくも相補的である）という提案が支持を集め、評価の高い2公演への積極的な同時贈賞に落ち着いた。

受賞公演2

<公演概要>

名 称：「ぎふ未来音楽展 2020 三輪眞弘祭 ー清められた夜ー」

日 時：2020年9月19日（土）23：00～26：00

会 場：サラマンカホールよりライブ配信（視聴無料、無観客開催）

出品作家：

作曲・企画・構成：三輪眞弘

映像監督：前田真二郎

フォルマント音声合成：佐近田信康

詩：松井茂

写真：麥生田兵吾

プログラム：三輪眞弘「鶏たちのための五芒星」

(2020 サラマンカホール委嘱作品・世界初演)

ヨハネス・オケゲム「死者のためのミサ曲」

MIDI アコーディオンとパイプオルガン版

フォルマント兄弟「霊界ラヂオ」＋「ポイパと海行かば」(2020)

三輪眞弘「箏と風鈴のための《もんじゅはかたる》」

(2019 サラマンカホール委嘱作品)

三輪眞弘「神の旋律＋流星礼拝」(2020 版)

出 演：川口隆夫 (ダンス)

岡野勇仁、西村彰洋 (MIDI アコーディオン)

塚谷水無子 (オルガン)

江原優美香 (箏)

ほんまなほ (ルバブ)

マルガサリ (ガムラン・アンサンブル、恵比寿屋直樹、大井卓也、黒川岳、

谷口かなな、中川真、西村彰浩、森山みどり)

公募パフォーマー、悪魔、6羽の鶏

制作協力：ナヤ・コレクティブ

主 催：サラマンカホール

共 催：情報科学芸術大学院大学 [IAMAS]、京都大学人文科学研究所

<贈賞理由>

岐阜サラマンカホールの「ぎふ未来音楽展 2020《三輪眞弘祭》—清められた夜」は、かなり早い段階で無観客・ライブ配信という方針を定め、これまでも同ホールとの協同で重要な仕事をしてきた三輪眞弘による諸作品を、あるものは拡張し、あるものは再解釈して、集大成しながら、2020年夏の特異な状況を最も根源的に問い直す公演となった。

9月の一夜、極めて精細な白黒の映像(前田真二郎による)で伝えられた3時間の配信を一貫して導いたのは「鶏たちのための五芒星」と題された作品(同ホール委嘱作品、初演)である。これはガムラン(マルガサリの演奏)やドレミパイプの響きの中、演者たちが五芒星のラインを一定の規則に従って移動し続けるというパフォーマンスだが、とりわけショッキングだったのは、中央のダンサー(川口隆夫)にかけ続けられた白い粉である。周囲を歩き回る実際の鶏の存在も相俟って、その粉は鳥インフルエンザで殺処分された鳥たちにかけてられた消石灰を連想させるが、もちろんコロナ禍の状況下で見れば過去の伝染病の犠牲者や、「ダビデの星」(六芒星)をつけて殺されたユダヤ人たちのことも思いだされる。そこに響き続ける音と情景は、我々が置かれている自由主義／消費社会のどん詰まりのような行き場のない状況と緩やかに呼応していた。

この「五芒星」が形づくる基調の中で、「霊界ラヂオ」(三輪眞弘と佐近田信康が試みてきた音声の人工合成の試み)や、「もんじゅはかたる」(サラマンカホールの2019年の委嘱作品、江原優美香がARゴーグルをつけて箏を弾き、藤井貞和の詩を唱える)などが上演される。その全体は、コロナ禍という状況を真正面から引き受けた、世界的に見てもまれなレベルの発信となった。そのチャレンジと達成に対して佐治敬三賞を贈る。

- ウ. 選考委員 伊藤制子、伊東信宏、片山杜秀、白石美雪、長木誠司、野々村禎彦、船木篤也、水野みか子 の8氏
- エ. 賞金 各100万円
- オ. 贈賞 日程調整中

4. 第30回「芥川也寸志サントリー作曲賞」の選考、決定、贈賞

2019年に初演された新進作曲家の管弦楽作品の中で最も清新かつ豊かな将来性を内包する作品を選定。最終選考はサマーフェスティバル2020の一環として、公開の場で行った。

第30回「芥川也寸志サントリー作曲賞」選考演奏会

8月29日(土) 15:00～ サマーフェスティバルの一環として開催。

第28回受賞記念委嘱の坂田直樹氏作品を初演したのち、候補作品を演奏した。

演奏終了後、3人の選考委員が公開による選考を行って、1曲を選定し、第30回「芥川也寸志サントリー作曲賞」(150万円)を小野田健太氏作曲の『シンガブル・ラブ II - feat. マジシカーダ』オーケストラのための」に決定、贈賞した。

選考委員は、金子仁美、福井とも子、望月京の3氏。選考会司会は長木誠司氏。

なお、受賞作曲家には新作を委嘱(委嘱料100万円)し、完成後、当財団主催の演奏会で初演する。

公益目的事業4(助成事業)

1. 推薦コンサート活動

毎月1回、東西で選考会を開き、日本人作曲作品をとりあげたコンサートを推薦していた旧来の推薦コンサート事業は平成30年度で終了し、同年3月に選定され4月に開催された推薦公演へのチケットプレゼントをもって完結した。

第20回佐治敬三賞からあらたにスタートした「佐治敬三賞推薦コンサート」は、応募のあった公演企画の中から佐治敬三賞選考委員がメール会議により選定した。推薦されたコンサートは順次ホームページ告知し、抽選により各公演10名を招待した。新型コロナウイルス感染拡大のため、本年度に開催予定だった20企画のうち、5公演が次年度以降へ延期となった。

2. 楽器貸与事業

ア. 学生向け楽器貸与事業

世界的文化遺産である弦楽器名器を保全し次世代に継承するとともに、若手音楽家の育成、クラシック音楽の発展に貢献することを目的に、毎日新聞社主催の全日本学生音楽コンクール ヴァイオリン部門と提携して、「サントリー芸術財団名器特別賞」を設定している。

7年目となる本年度は、横浜みなとみらいホールにて実施された同コンクール、中学校の部(11月29日)、高校の部(11月30日)にて、選定委員が受賞者1名および推奨ヴァイオリンを選定し、3年間の無償貸与を令和3年2月より開始。

【第7回サントリー芸術財団名器特別賞受賞者および貸与楽器】

荒川桐真 ANGELO TOPPANI (1740年製)

【選定委員】

梅津時比古 (毎日新聞社 特別編集委員)
宮脇祐介 (毎日新聞社 事業本部文化担当事業部長)
石井志都子 (音楽家、全日本学生音楽コンクール諮問委員)
辰巳明子 (音楽家、桐朋学園大学教授)
藤原浜雄 (音楽家、桐朋学園大学院大学教授)
濱岡智 (サントリー芸術財団専務理事)

イ. 演奏家向け楽器貸与事業

世界を舞台に活躍する若手日本人演奏家に5年間貸与する事業を平成30年度から開始し、現在以下の通り貸与中。

【貸与者および貸与楽器】

米元響子 ANTONIO STRADIVARI (1727年製作 ヴァイオリン)
田原綾子 PAOLO ANTONIO TESTORE (1728年製作 ヴィオラ)

3. その他の助成

ア. 活動助成

- (1) 音楽文献目録委員会 音楽文献目録出版に対して
- (2) ミュージック・フロム・ジャパン 国際音楽祭開催に対して

イ. 運営助成

- (1) 日本作曲家協議会
- (2) 日本現代音楽協会
- (3) 日本演奏連盟

サントリー芸術財団設立50周年記念事業(公益目的事業1、5)

1. (公益目的事業5) 記念出版「日本の作曲2010-2019」の制作

周年事業として10年毎に出版している「日本の作曲」の2010-2019年版をWEB出版として刊行するため制作準備および座談会を4回(うち1回はオンライン会議)行なった。直近10年間の邦人作曲家の主要作品、作曲界の動向についてのレビューを中心とする内容。COVID-19による緊急事態宣言等の影響を受け、令和3年度刊行予定。

以上